

平成30年2月15日 北海道地方路線問題調査特別委員会 開催状況

開催年月日 平成30年2月15日

質問者 公明党 吉井 透 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p>一 交通政策総合指針（案）について</p> <p>この度、示された「交通政策総合指針（案）」及び鉄道ネットワーク・ワーキングチームフォローアップ会議が取りまとめた「鉄道網のあり方」などについて、以下、質問をさせていただきます。</p> <p>（一）施策の推進について</p> <p>この交通政策指針（案）には、様々な交通モードに関する方向性などが触れられております。この中でも特に道民からの関心が高い事項は「鉄道の方向性」であると考えます。本道における鉄道の役割は単に旅客輸送のみならず、鉄道貨物輸送といった物流にも大きな役割を果たしているものであります。</p> <p>そうした中、今回の指針（案）では、ヒト・モノ輸送戦略として、物流に焦点を当てて、これらを交通政策の重要な柱と捉えて施策の展開を図ろうとしておりますが、これら貨物輸送に関する施策を展開していくためには、幅広い事業者間との連携が不可欠であると考えます。</p> <p>道は、どのような考えの下で、関係施策の推進に取り組んでいくのか、まず伺いをします。</p> <p>（二）フォローアップ会議報告書について</p> <p>鉄道ネットワーク・ワーキングチームの報告書の中に、JRの徹底した経営努力を前提にという言葉が、多数みられております。また、今回の質問の答弁の中でも、そういった言葉の答弁をされていると思えますけれども、私は、JR北海道への支援は、まず、JR北海道の経営努力が欠かせないと思っております。こうした点も含めて、鉄道ネットワーク・ワーキングチームフォローアップ会議の報告書について、どのような観点から何を重視して、作成をされたものか、伺いをします。</p>	<p>【物流港湾室参事（物流企画）】</p> <p>物流ネットワークについてであります。本道においては、人口減少や高齢化が進行する中、今後とも農産物や日用品などの安定的な輸送を確保していくためには、輸送力の維持・確保やコストの削減など、鉄道貨物輸送をはじめとする物流の効率化を検討していくことが必要であると認識しています。一方、トラック運転手の不足など、物流を担う事業者を取り巻く環境は極めて厳しくなっており、個々の事業者の取組だけでは、輸送の確保が難しい状況にあることから、この度の指針案では、鉄道を活用した共同輸送によるモーダルシフトの推進や、貨客混載輸送など、交通・物流事業者が相互に連携・補完した取組を掲げているところであり、地域の暮らしや産業を支える安定的かつ持続的な物流ネットワークの確保に向けて取り組んでまいりたいと考えてございます。</p> <p>【交通政策局次長】</p> <p>鉄道フォローアップ会議の報告についてでございますが、今回の会議におきましては、昨年2月に鉄道ワーキングチームが公表いたしました6つの類型を基本に、地域におけるこれまでの検討・協議の状況等も踏まえ、北海道新幹線の札幌開業が予定されております2030年頃を念頭に、鉄道網のあり方について中長期的な視点から、検討が行われたところでございます。</p> <p>また、持続的な鉄道網の確立に向けましては、JR北海道の徹底した経営努力を前提に、国の実効ある支援とともに、地域においても可能な限りの協力、支援を行うことが重要であるとの基本認識の下、鉄道事業者のみならず、行政や住民の皆様が、各々の役割を認識し、相互の理解と協力のもと、一体となった取組を展開していくことの重要性や、公共交通とまちづくりや観光振興などとの連携による総合的な取組の必要性などについても考えが示されたものでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 地域の受け止めや意見について</p> <p>今回示された報告書の内容については、地域に受け止められてこそ、今後の検討が加速するものと考えますが、これらは地域の検討状況を踏まえたものとなっているのか、まず伺います。また、鉄道ネットワーク・ワーキングチーム・フォローアップ会議の報告書を見ると、5つのグループ分けで、その方向性が示されているものと受け止められますけれども、岸座長は、鉄道の重要性について、「優先順位」という言葉ではなく、地域における交通手段の重要性はどの地域も等しいと発言されているものと承知をしております。今回の報告に対し沿線自治体からは、どのような意見が寄せられてきたのか、併せて伺います。</p> <p>(四) 国の抜本的な支援策について</p> <p>指針に示された「地域における負担」が何を想定し、どのような検討を進めれば良いかも示されない中で「あり方」だけが公に示されても、地域にとっては唐突で、困惑するばかりであると考えます。</p> <p>道やJRが主体的に地域の検討・協議を進めるに先立って、まずは、国に求める抜本的な支援策を明らかにすべきであると考えます。道にその考えを伺います。</p> <p>昨今の大雪で、私も旭川からここまで出てくるのに、苦労をしましたけれども、北陸の方では、大雪が交通に多大な影響を与えているという現状もあります。</p> <p>北海道の特殊性、それから長大路線、こういったことは、他県とは異なる事情もあると思いますので、私は、現行の様々な国の支援の制度の枠組みでは不十分であると思っております、知事もそのような趣旨の発言をしておりますけれども、こういった点もしっかりと、地域からの声を聞いた上でまとめていただきたいと思っております。</p>	<p>【鉄道交通担当課長】</p> <p>地域の検討・協議についてであります、道では、これまで、地域の検討・協議の場に有識者とともに参画し、道が有する情報提供を行うなどして、関係自治体の皆様と議論を積み重ねてきたところでございますが、鉄道フォローアップ会議においては、これまでの検討・協議の状況や、沿線協議会が示した線区のあり方に関する中間報告などを踏まえつつ、将来を見据えた鉄道網のあり方について議論を行ったところでございます。</p> <p>今回出された報告書に対しまして、沿線自治体からは、これまで地域で行ってきた議論と考え方が概ね一致しているとの声がある一方、住民が安心できる交通体系を示すことが重要であるとの声も寄せられているところでございます。</p> <p>【交通政策局長】</p> <p>国の実効ある支援についてでございますが、今回の鉄道フォローアップ会議の報告では、本道における持続的な鉄道網の確立に向けては、JR北海道の徹底した経営努力を前提とし、国の実効ある支援とともに、地域においても可能な限りの協力・支援を行うことが重要との基本認識のもと、道や市町村が行う協力・支援のあり方については、具体的な制度設計に向け、国なども含め、検討を急ぐ必要があるとの考え方が示されているところでございます。</p> <p>昨年12月に実施しました国への要請におきましては、国土交通大臣から、今後の対応については、関係者間の議論の進展を踏まえながら、支援を検討していきたいとの考えが示されたところでありますが、道といたしましては、JRが実施する安全性の確保や利便性・快適性の向上に向けた設備や修繕の取組に対して支援を行っていく考えでありまして、今後、道議会でのご議論や、地域における検討状況を踏まえながら、具体的な支援のあり方について、検討を進めてまいりたいと思っております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(五) 観光路線の位置づけについて 道内の各線区では、利用促進に向けた様々な議論が行われてきているものと承知をしております。 どの地域においても利用促進には、観光振興などの視点に立った議論が行われたと考えますが、特に富良野線や釧網線が「観光路線」と位置づけられておりますが、これはどのような考えによるものなのか、伺います。</p> <p>(六) バス転換の考え方について 札沼線については「バス転換も視野に」ということで、他の線区に比べて非常に具体的な表現で記載がなされております。一方で、報道などによると地域からの反発も聞こえてくる場所がありますが、道として、こうした厳しい表現とした考え方について、伺います。</p> <p>(七) 全市町村への説明について 今後、フォローアップ会議の報告書の内容については、沿線自治体のみならず、北海道全体のものとして、全市町村に説明していくべきであると考えますが、この点について、道の所見を伺います。</p>	<p>【鉄道交通担当課長】 富良野線及び釧網線についてであります。北海道新幹線の札幌開業・延伸や、訪日外国人観光客の増加が見込まれる中、観光客の周遊を支える基盤となる鉄道網は、観光立国・北海道の推進に大きな役割を果たすことが期待されております。 中でも、富良野線及び釧網線については、沿線に世界自然遺産や国立公園など、知名度の高い観光資源を数多く有しているほか、沿線地域が、国の広域観光周遊ルートに指定されているなど、今後、インバウンド等による交流人口の飛躍的な拡大に向け、重要な役割を果たすことが期待されますことから、関係機関が一体となって、観光路線としての特性をさらに発揮するよう取組を行うとともに、地域における負担等も含めた検討・協議を進めながら、路線の維持に最大限努めていくことが必要とされたものでございます。</p> <p>【鉄道交通担当課長】 札沼線(北海道医療大学～新十津川間)についてであります。札沼線は、輸送密度が極めて小さいことや、浦臼以北における1日当たりの平均利用者が10人に満たないことに加え、月形以北では、日常生活における移動の中心となっている滝川、奈井江、岩見沢との間で多数のバスが運行されているという状況にございます。 また、昨年11月に開催されました沿線4町長の意見交換会においても、バスを含めた最適な公共交通ネットワークのあり方について、早急に検討していくことが必要との見解が出されたところであり、こうした点も踏まえながら、「バス転換も視野に」検討・協議を進めていくことが適当との考えが示されたところでございます。</p> <p>【交通政策局次長】 地域への説明についてでございますが、鉄道フォローアップ会議の報告書につきましては、鉄道網が直面する厳しい事業環境や地域で果たしている役割、地域におけるこれまでの検討・協議の状況も踏まえ、地域の将来を見据えた鉄道網のあり方について、道が総合的な交通政策を推進する上での基本的な考え方を全道的な観点から示したものでございます。 今後、地域においては、報告書の考え方などを参考に、鉄道事業者はもとより、道や国も参画し、各々の実情や線区の特性を踏まえた検討・協議をさらに進めることが重要でありますことから、道では、今後、地域における検討・協議などの場において、交通政策総合指針</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>札沼線のことに留まらず、地元ではやはり不安に思っている、あるいは、報告書の内容について、色々な意見をもっているところもあるかと思しますので、そうした懸念をしっかりと払っていただけるように、丁寧な説明をよろしくお願いをしたいと思います。</p> <p>(八) 道の今後の取組について</p> <p>現在、JR北海道が事業範囲の見直しにより、地域における公共交通体系が大きく変化することが危惧される中で、この指針(案)をもって、地域に暮らす住民それぞれが真に利便性の高い公共交通体系が構築されていくことが望ましい姿であると考えております。</p> <p>道として、今後、鉄道やバスなどの公共交通機関との連携に、どのように取り組む考えか、伺います。</p>	<p>(案)の内容や、鉄道フォローアップ会議の報告で示された考え方などにつきまして、丁寧に説明を行う考えであり、地域における将来を見据えた鉄道網のあり方に関する議論が加速するよう、積極的に取り組んでまいります。</p> <p>【交通企画監】</p> <p>今後の取組についてでございますが、本道におきまして、人口減少やモータリゼーションの進展により、公共交通の利用者が減少し、交通事業者を取りまく環境が一層厳しくなる中、今後とも、公共交通ネットワークを維持していくためには、交通事業者のみならず、行政や関係団体など、多様な主体が連携をするとともに、自らの役割を果たしながら、施策を一体的に推進していくことが重要であると認識をしております。道では、こうした状況を踏まえ、指針案において、関係機関の連携・協力体制の構築を進め、鉄道やバスなど交通モードの連携によりスムーズな乗り継ぎや利用者ニーズにあった最適な運行ダイヤの編成といった公共交通の利便性向上を図ることとしてございます。引き続き、関係者が一体となって、道民の皆様の暮らしや産業経済を支える公共交通ネットワークと地域交通の確保に向け、積極的に取り組んでまいります考えでございます。</p>